

神奈川県学童保育

第53回全国学童保育研究集会を開催

—in 神奈川 実行委員会より—

たくさんの方のみなさんのパワーとスマイルとハートで開催された第53回全国学童保育研究集会 in 神奈川。

2日間にわたって13年ぶりに神奈川県で開催された、学童保育関係者の年に一度のまさに一大イベント。

要員として、受講者として参加していただいた保護者や指導員などのみなさん、いかがでしたか？何かひとつでも学び取ることはできましたか？全国各地から集まった方と交流しあうことはできましたか？お一人お一人全員からお話を聞いてみたい気持ちです。

2日目、研究集会を終えて各地に帰っていく参加者の方々の笑顔がとっても素敵で、関東学院大学のキャンパス全体が、この笑顔でつながっているなあと感じて、感動しました。きっと、わが神奈川のみなさんが、たくさんの方の笑顔で全国の参加者をお迎えして、笑顔をいっぱい伝染させることができた証しだったのだと思います。

わたくし、実行委員長殿村作詞作曲の「Gackdow Houwick ～学童保育～」も、みなさんに一緒に歌ってもらえることができ、すごくうれしかったです。ありがとうございました。本当に感謝です。

さて、来年の全国研は京都。10/19-20の2日間で開催されます。

今回、たくさんの方の笑顔をつなげたパワーとスマイルとハートを京都に届けに行くために、みんな誘い合ってたくさん参加しましょう。



♪Ah 一人じゃないから 出逢い 悩み 支え合い
つながることでもまた 明日もがんばれる♪

実行委員長 殿村 雅文

全国研究集会を終えて…。

第53回全国学童保育研究集会 in 神奈川が無事終了いたしました。参加者の皆さん、ありがとうございました。そして、要員として活躍していただいた皆さん、実行委員として活躍していただいた皆さん、本当にありがとうございました。

実行委員会を立ち上げてから1年余、長い時間でしたが、終わってみればあつという間の出来事だったように感じます。実行委員会開催がどうしても横浜あるいは関内の県連協事務所周辺のことになるため、県下の地域連協が一堂に集まることは大変なことでしたが、それでも拡大実行委員会や実行委員会総会には多くの方が参加していただき、本番に向かって雰囲気を大きく盛り上げていきました。また、13年ぶりということから前回の神奈川集会に参加していなかった方が圧倒的に多かったため、当初は実行委員会として軌道に乗せるまでに多くの時間を費やすのではないかと危惧していましたが、頭出し当時こそ多少のもたつきはあったものの、心配は杞憂に終わり、終盤は一気に走り抜けた、という感じに勢いがつきました。

唯一心配していた天気も、全体会当日の夜こそ大雨に見舞われるアクシデントはありましたが、晴天に恵まれたのも幸いでした。特に分科会は暖かな晴天となり、関東学院大学のキャンパスで、広がる青空の下、お弁当を広げて楽しげに語り合う参加者の皆さんの笑顔を見た時、一年間の準備に費やした時間と苦勞が報われた気がしました。

結果的には目標の5,000名には届かず、46都道府県から4,488名の参加となりましたが、参加した皆さんが、この神奈川で学んだことをそれぞれの地域に、クラブに、家庭に持ち帰ってもらい。明日からの活力に変えてもらえれば幸いですし、何といたっても主催した神奈川の皆さんの力になることを願ってやみません。

事務局長 上崎 輝夫

神奈川県の学童保育を支える議員連盟との意見交換会を開催

全国研開催間近の9月29日(土)に、神奈川県の学童保育を支える議員連盟(学童保育議連)との意見交換会を行いました。県議会議員103人のうち半数を超える59人が所属する超党派による議員連盟です。(9/29時点)2008年に発足され、神奈川県内の学童保育の視察や学習会、意見交換会を行っています。

今回は、全国連協の木田会長から「放課後児童健全育成事業の「従うべき基準」の参酌化が学童保育に与える影響について」を講演していただき、その後カレーを食べながらの意見交換会を行いました。県議会議員18人、指導員、連協役員等学童保育関係者24人が参加し、「子どもたちの安全で安心できる『毎日の生活の場』を保障するために「従うべき基準」を守ることが必要である」ことを伝えるとともに、地域の課題を共有する場となりました。



私のおすすめ「日本の学童ほいく」

毎月の運営委員会で、「私のおすすめ『日本の学童ほいく』」を地域持ち回りでご紹介いただいています。8月は2018年8月号から、横浜市の堀さんからのおすすめです。

「旅してみよう鉄道の世界⑧(P.52)」より、「『新幹線が300km/時で走るための空気抵抗を減らす技術』から。必要なものでも時には障害となる。置き換えると障害は自分をたかみ高みに引き上げる機会かもと感じた」。また、子どもの質問コーナー「どうしてどうして」の「おうむがしゃべるわけ」では、「愛されているおうむは良くしゃべる」との回答に、共感するのはコミュニケーションの第一歩。相手を理解し一緒にやっていく視点を大切にしていきたいと思いました。」

また、9月の相模原市の渡辺さんからのおすすめは、9月号講座より、「特にP.50からの部分で、心が折れた時など、戻る力も遊びの中で育まれると書かれている。結果としてのものかもしれないが、大切なことだと感じたので、おすすめしたい。」とのことでした。

堀さん、渡辺さんありがとうございました。

2018年9月号～10月号に掲載されている神奈川からの投稿

<2018年9月号>

- ☆ 特集「親子の思いに寄り添い、共に子育てしていくことを願って」
三浦市放課後児童クラブひまわり指導員 伊集喜代子さん
- ★ 子どものひろば 横須賀市 けいらさん(5年生)・逗子市まりあちゃん(1年生)
- ☆ 実践ノート「しんと関わるなかで②」
横須賀市栗田・ハイランド学童クラブ指導員 清水美幸さん

<2018年10月号>

- ☆ グラビア 横須賀市浦郷学童クラブ
- ★ 子どものひろば 横浜市 おとねちゃん(1年生)・横須賀市 優菜さん(4年生)
横浜市 かんたくん(1年生)
- ☆ 読者のひろば 横須賀市指導員 飛鳥井祐貴さん

<第53回全国学童保育研究集会>

9月号～10月号も全国研特集が生まれ、内海さんから神奈川の魅力、実行委員長の殿村さんからは「Gakudou Houwick ～学童保育～」(53全国研 in 神奈川テーマソング!)の紹介がありました。

全国連協総会に於いて「従うべき基準の堅持」をめざす決議が採択

第53回全国研 in 神奈川（10/20・21）の前日、開催地神奈川県内にて全国連絡協議会の総会が開催され、以下のような特別決議が採択されました。

これは、指導員の複数配置と資格を定めた「従うべき基準」を廃止または参酌化しようとする地方分権からの動きに対して全国連協は署名や地方議会から国への意見書を提出させる運動を呼び掛けました。それに呼応して神奈川県連協は県議会から意見書をあげるよう求める請願に取り組みを決め、神奈川の学童保育を支援する県議員連盟の協力を得ながら活動を進めてきました。そして、神奈川で開催される全国研のタイミングで全国連協が特別決議を上げることが、大きな力になるとの私たちの意見が汲み上げられ、この決議が採択されることとなりました。

学童保育の「従うべき基準」の堅持と早期拡充をめざす決議

2017年12月26日の「平成29（2017）年の地方からの提案等に関する対応方針」において、「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準（以下、設備運営基準）」の「従うべき基準」の廃止または参酌化について、「地方分権の場」で検討されることが閣議決定された。

私たち全国学童保育連絡協議会は、「従うべき基準」の廃止または参酌化について断固として反対し、子どもの命と安全を守る上で欠かせない「学童保育の『全国的な一定水準の質』」を確保するために、「従うべき基準」（指導員の資格と配置）を堅持し、早期に拡充することを求めてきた。

私たちは、厚生労働省や内閣府に対しては要望書を提出し、「放課後児童対策に関する専門委員会」にはヒアリングの場において「従うべき基準」の堅持を訴えてきた。緊急に行った「学童保育（放課後児童健全育成事業）の『従うべき基準』を堅持することを求める」請願署名では、目標を大きく上回る20万8993筆の署名を国会に届けた。同時に、「公的責任における放課後児童クラブ（学童保育）の抜本的拡充を目指す議員連盟」と「自由民主党学童保育（放課後児童クラブ）推進議員の会」（以下、「自民党議連」）にも働きかけ、それぞれの総会の場で「従うべき基準」の堅持を訴えた。

こうした私たちの取り組みで子どもたちのいのちや安全を保障していくには「従うべき基準」は必要不可欠であるという認識が大きく広がってきた。「自民党議連」においては「放課後児童クラブの『従うべき基準』の維持を求める決議」が決議され、厚生労働大臣に申し入れが行われるなど国会での動きもつくられた。厚生労働省は、当初、2018年8月を目途に具体的な検討を行うとしていたが、2018年10月現在、結論はでていない。しかしながら、「地方分権の場」における「従うべき基準」の廃止または参酌化の検討は依然として進められている。予断を許さない状況にあり、「従うべき基準」の堅持を求める取り組みを今まで以上に強めていく必要がある。

私たちは、引き続き「従うべき基準」を守る取り組みを後押しするために、地方議会や自治体から「『従うべき基準』の堅持を求める意見書」を提出する取り組みをすすめている。2018年10月現在、埼玉県議会、福岡県議会、岩手県議会、埼玉県東松山市などで、意見書が提出された。

「設備運営基準」では、施設の広さや規模などが「参酌」にとどまったために、市町村の学童保育に対する認識の違いによって、自治体施策の格差が生じている。「従うべき基準」を廃止または参酌化することは、全国の学童保育の質に一層格差を生み出すことになり、子どもたちの成長・発達及び安全確保に困難を強いるものである。

私たちは、この総会において確認された「子どもの命と安全を守る上で欠かせない『全国的な一定水準の質』」を確保するために、「従うべき基準」を堅持し、早期に拡充させる取り組みをすすめます」という方針のもと、世論の理解を得るとともに、国会への請願をはじめ国、国会議員、地方議会および地方自治体に対して、あらゆる手立てを検討し、取り組みを進めていく。以上、決議する。

2018年10月19日 全国学童保育連絡協議会 2018年度 定期総会

活動報告(10月～11月の主な活動報告)

10月10日(水) 53全国研 in 神奈川実行委員会
10月18日(木) 53全国研 in 神奈川実行委員会
10月19日(金) 全国運営委員会・総会

10月20日(土) 53全国研 in 神奈川・全体会
10月21日(日) 53全国研 in 神奈川・分科会
11月24日(土) 53全国研 in 神奈川実行委員会

☆☆☆ 第42回神奈川県学童保育研究集会ご案内 ☆☆☆

今年度は全国研を神奈川県で開催したため、全体会のみで開催となります。詳細はチラシをご覧ください。

- 日時：2019年2月24日(日) 13時30分～16時00分(13時00分開場)
- 会場：横浜市神奈川公会堂・ホール(JR 東神奈川駅/京急 仲木戸駅 徒歩4分)
- 参加費：1,000円(資料代込)
- 記念講演：講師 福井雅英氏(滋賀県立大学)

♪ 地域連協だより ♪

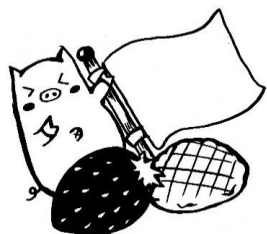
綾瀬市連協だより

綾瀬市は県央に位置し、“緑と文化が薫るふれあいのまち”と言われるほど緑の多いところです。また、2年後には東名高速道路に綾瀬スマートICが開通するなど、今後も街は大きく発展していきます。

綾瀬市の学童は、30年ほど前に当時の保護者の方々が立ち上げた保護者運営の学童保育に始まり、現在では12の民設クラブと4つの公設クラブにおいて、約500名もの児童がワイワイ楽しく放課後の時間を過ごしています。また、運営主体も保護者運営だけでなく、NPO法人や公設による運営など多様な形態となっています。

今回の全国研では、綾瀬市からも多くの方に参加していただきました。かく言う私も初めての全国研参加でしたが、2日目の分科会で全国の指導員の方々が熱く議論されているのを見て、保護者として頭の下がる思いでした。

今回の経験も踏まえ、今後も“保護者として何ができるか”を考えながら、クラブや市連協の運営に関わっていきたいと思います。



綾瀬市学童保育連絡協議会
会長 太田賢吾

次号の「地域連協だより」は秦野市連協が担当です。

お楽しみに!



神奈川県学童保育連絡協議会HP
(<http://kanaken.onushi.com/>)



<これからの主な予定>

- 1月6日(日) 県連協「日本の学童ほいく」普及推進会議(横浜市健康福祉センター・AM)
- 1月6日(日) 県連協「新春会長会議」(横浜市健康福祉センター・PM)
- 1月20日(日) 全国運営委員会関東ブロック会議(東京)
- 2月24日(日) 第41回神奈川県学童保育研究集会(横浜市神奈川公会堂)
- 6月2日(日) 第44回全国指導員学校・南関東会場(神奈川県立保健福祉大学)

*その他、運営委員会は毎月第1木曜日、役員会は運営委員会のある週の月曜日に開催しています。